

ALP の JSCC 法から IFCC 法への変更について

○吉島麻依、星佳子、佐藤紀子、櫛田さおり、近藤好恵、渡辺和幸、多治見公高
公益財団法人 郡山市健康振興財団

【目的】

アルカリフォスファターゼ（以下 ALP）とは主に肝臓や胆道の病気を調べるために用いられる酵素のことであり、従来 JSCC 法（JSCC：日本臨床化学会）が用いられてきたが、2020 年に IFCC 法（IFCC：国際臨床化学連合）へ変更指示が出された。2022 年より IFCC 法への変更を行ったため報告する。

【変更内容】

JSCC 法では血液型が B 型と O 型の人で病気とは関係なく ALP が上昇してしまうため問題になっていた。他にも、妊婦では ALP が低下し、脂肪食後では偽高値になることが分かっていた。IFCC 法では、JSCC 法による影響を除外し、疾患とは無関係な ALP 上昇を軽減するため肝臓や骨疾患の臨床的意義を向上させることにつながり、測定値を海外と共有化でき、国際的な治療や治験への参画時に利便性が向上することが期待されている。基準値は、106～322U/L から 38～113U/L と 3分の1の値に大きく変わる。

【考察】

JSCC 法から IFCC 法への変更を行ったことで、日々の精度管理の変動が少なく再現性も良くなった。このことから、試薬などの消費も減るためコストも抑えられることが可能となった。また、外部精度管理での評価も良くなったため、施設評価も良くなることが期待できる結果となった。

【まとめ】

今回、ALP の JSCC 法から IFCC 法への変更について報告した。JSCC 法で問題視されていた影響が IFCC 法へ変更したことで改善された。臨床的意義及び、精度管理の向上により今後も現状維持をするとともに正確な値の提供に努めたいと考える。